

地域連絡会議の今後について

1. はじめに

知床世界自然遺産地域連絡会議は（以下、地域連絡会議）は、遺産地域の管理に当たって、関係行政機関、地元自治体、関係団体等の中で効果的な連携・協働を図るため、その連携調整の場として設置されている。

一方、知床世界自然遺産地域科学委員会（以下、科学委員会）は、複雑で将来予測が不確実な生態系について、調査研究・モニタリング・評価とその結果に基づく順応的な管理を進めるため、科学的な立場から助言を得るために設置されている。

2. 地域連絡会議の役割

地域連絡会議の役割は、知床世界自然遺産地域管理計画において、2つ定められている。1つは、地域における合意形成を行う場としての役割であり、もう1つは、地域住民や関係団体からの意見や提案を幅広く聴き、地域の自然を伝統的に利用してきた地域の知識を遺産地域の管理に活用していく役割である。

3. 現状

近年の地域連絡会議では、科学委員会において議論された議案について報告することが主となっている。遺産地域の管理に関する方向性を決定する場や、地域からの提案を抽出する場としての地域連絡会議の機能は、十分に発揮されていない。

4. 地域連絡会議の今後について

遺産管理に係る連携・協働を推進するためには、地域連絡会議において積極的に意見交換がなされることが望ましい。そのためには、地域連絡会議において、事務局（環境省、林野庁、北海道）からの提案を検討するとともに、地域からの提案がなされる必要がある。